

## 令和4年度 第2回 都市計画サロン 報告

日時：令和4年11月8日（火）

参加者：25名

演題：「100年ぶりの鉄道駅 ～官民連携による嬉野温泉駅周辺整備～」

講師：松尾 憲造氏（佐賀県嬉野市役所 建設部 新幹線・まちづくり課 課長）

### 講演内容：

（松尾 憲造 氏）

嬉野市はすべての産業が観光に関係しており、観光客は年間約200万人程度だったが、ここ数年は減少している。一度長崎自動車道が開通した際に観光客が増えたこともあり、西九州新幹線の開業で再び増えることが期待されている。嬉野には以前肥前電気鉄道が昭和初期まで走っていたが廃線になり、これまで鉄道が通らない自治体であった。そういった中で今回西九州新幹線が平成20年に国から認可が下り、100年ぶりに鉄道が通る自治体となった。

まずは新幹線駅周辺の区画整理事業と道の駅整備事業について紹介する。嬉野市では以前から都市計画事業について土地区画整理事業を中心に実施しており、今回嬉野温泉駅の開業により9か所目の土地区画整理事業を実施した。そこにもともと老朽化で建て替え移転を検討していた嬉野医療センターも、この中に移転するという話になった。

区画整理についてはノウハウがあったが、駅ができるということは経験がなかったため、佐賀大学三島教授を委員長にまちづくり委員会を設置し、相乗効果として中心地と駅前で魅力が向上する、旅のスタート地点として検討を進めてきた。その中でインフォメーション機能や嬉野の魅力を伝え、観光拠点となる機能などの盛り込むこととなり、道の駅を主軸に整備することとなった。また道の駅の機能は公共、隣接する商業施設部分は民間活力を活用するという方針となった。地権者が買収を希望した用地については市が土地の所有権を持ち、一方で借地を希望する用地については嬉野市が地権者から借地権をもち、さらに民間事業者が定期借地として利用するスキームをとっている。

また今回整備した道の駅はこれまで全国に建設されてきた道の駅とは違い、駅前に立地することから交通結節点としての機能を強く持っており、

旅のスタートポイントとなっている。情報発信や交流をメインとしているため、観光交流施設のショップでも多くの商品をあえておかず、マップを置くことで実際のお店に回遊してもらうような仕組みを取っている。また温泉についても入浴施設ではなく手湯として触れてもらい、その後各種施設に行っていただくような仕組みにしている。そのほか民間施設として地元酪農家が経営するカフェや宿泊特化型ホテルの建設がされており、カフェについては先日オープンし好評をいただいているところである。宿泊特化型ホテルについてもホテル内には温泉はなく、温泉街まで回遊して入浴してもらうことを想定している。このように新幹線駅と道の駅を旅の出発地点として、市内の各地へ回遊してもらえよう整備してきた。

次にソフトなまちづくりとして取り組んでいる、未来技術社会実装事業について紹介する。リモートで体感できる嬉野としてまずはデジタルモール嬉野を公開し、リアルに体感できるよう取り組んでいるほか、VRゴーグルを活用し嬉野の飲食店のPRを行っていくコンテンツを公開している。SNSやTIG動画を活用し、マーケティングの効果測定を現在行っているところである。

また市内の移動手段については、現在自動運転車両の体験試乗会を行っており、将来の活用について意見をいただきながら検討を進めている。Maasについても取り組みを進めており、カーシェア、マイルート、スマートバス停などを導入し、来訪者に不便を掛けない移動手段の構築を図っている。

これらの施策実施の財源については国から様々な交付金をいただき整備を行うことができた。

### 意見交換：

講演後、宿泊施設のターゲットや温泉施設の考え方、またフル規格で全区間が開業していない中での民間施設の収支の見通しなどの議論がされた。

（文責：福岡大学 田部井優也）

